

主な人権課題「HIV感染者・ハンセン病患者等」

本コーナー作成時点（5月下旬）で、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解除になりました。しかし、第2波への備えが引き続き必要であると言われています。感染症と人類の闘いは、人類が誕生したときからすでに始まっております、これから先も続いていくと思われまます。

さて、表題のように「主な人権課題」にも2つの感染症に関する課題があります。

1つは、現在世界中で数千万人いると言われているエイズウイルス（HIV）感染者の人権問題です。日本国内でも感染者数が千数百人程度の横ばい状況が続いているようです。エイズウイルスは、性的接触に留意すれば、日常生活で感染する可能性はほとんどありません。また、新しい治療法や治療薬の開発も進んでいます。

もう一つのハンセン病は、らい菌という細菌による感染症です。らい菌の感染力は非常に弱く、感染しても発病することとは極めてまれです。万一発病しても、治療法も確立されており、早期発見と適切な治療により後遺症も残りません。

しかし、今でもエイズウイルスやハンセン病等の感染症に対する正しい知識と理解は、十分とは言えない状況にあります。これらの感染症にかかった

患者・回復者等が、周囲の人々の誤った知識や偏見によって、日常生活や職場等で差別やプライバシーの侵害等を受けるなどの問題が生じています。

エイズに関しては日本でも、血友病の患者が非加熱製剤を投与され、エイズウイルスに感染し、いわれなき差別を受けるといった薬害エイズ問題がありました（1996年に被告が責任を全面的に認め和解が成立）。

また、ハンセン病にも「らい病」と呼ばれ差別が当たり前のように行われた負の歴史があります。ハンセン病患者は、「らい予防法（1953年公布）」という法律で隔離政策がとられました。ハンセン病の治療法が1950年ごろに確立されたにも関わらず、この法律は1996年まで廃止されませんでした。その間、患者やその家族までもが偏見や差別に晒されたといい厳しい状況が続きました（2009年に「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」「ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律」が施行。その後、ハンセン病患者の家族への国家賠償が決定）。

このような偏見や差別の解消を更に推し進めるため、エイズウイルスやハンセン病等の感染症に対する正しい知識と

理解が必要で。ともに学んでいきたいと思います。（参考資料 法務省「人権の擁護」）

ご案内

「人権問題講演会」

【日時】 8月17日(月)午後2時

【講師】 松村 元樹さん

1981年2月生まれ

三重県伊賀市出身

現在、公益財団法人「反差別・人権研究所みえ」の常務理事兼事務局長。

その他にも、
・部落解放・人権研究所理事
・公益社団法人三重県人権教育研究協議会理事
・伊賀市障がい者福祉計画策定委員

として活動している。

【演題】「ネットと部落差別」
※新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、予定が変更になる場合もございますので、ご承知ください。

お知らせ

7月8日(水)に予定していました「人権教育・啓発推進者研修会並びに第一回人権教育学級」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止となりました。

市人権推進課（教育庁舎1階）

☎ 32・2122

FAX 33・3525

Mail:jinkensuisshin@city.komatsushima-i.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (369) 松並敦子・選

いつだって何があっても咲くさくら今年の限りを今年に咲いて

横須町 山崎 泰子

土手下にオープンカー停め若人は桜も見ずに車の点検

江田町 深田 伴子

進む古い近頃娘のよく来たる「火の用心」と貼り紙などして

立江町 湯浅かや子

野菜苗植え頃となり十種ほど植えれば鳥は生き生きとして

赤石町 田原トシ子

とげ持ちて小さき実を守らんとする酢橋の木は母性にも似て

田浦町 西 教明

若葉萌え鳥のさえずり聞こえて山には早も藤の花咲く

榑淵町 松下 玉枝

花見にも行けずに座って毎日をテレビで花見コロナのおかげ

坂野町 橋本千代乃

今朝もゆく桜散り数く境内へ吾は日課の柏手を打つ

横須町 三宅 敏恵

物忘れ日毎に多くなりゆけば「アレ?」「アラ?」「アア?」
の日々を重ねて

横須町 福島 夢栄

咳ひとつすれば隣りの席の人スツと静かにどこかへ消えた

田浦町 太田カツミ